

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(R2年度:計画作成主体:羽咋市農業活性化協議会)(石川県)

取組の概要

対象品目 : 水稻(産地面積:113ha)
主な取組主体:(有)フロンティアはら
(農)アグリスターオナガ
成果目標 : 輸出向け年間出荷量10t以上の増加
導入施設等 : 整備事業(穀類乾燥調製施設)
生産支援事業
(トラクター、コンバイン ほか)



石川県羽咋市

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

産地では水稻を中心とする土地利用型農業が展開されている。
高齢化の進行に伴い離農者が増えており、担い手への農地集積は進んでいるものの受け皿である担い手側の労働力が不足していることから、生産拡大への体制づくりが課題となっている。
また、輸出用米を新たに生産する中で、高品質なものを安定して出荷できる体制の確保が必要となっていた。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ・乾燥調製施設を整備し、さらなる規模拡大を後押しする。(輸出用米などの取り扱い増)
- ・大型機械導入により、担い手の生産性の向上を図る。
- ・輸出用米の販路確保、販売拡大を推進する。

産地体制

取組主体

生産性の向上
輸出用米の生産

経営規模拡大
農地保全

販売委託

はくい農業協同組合

販売代行・販路開拓

指導・助言

市・普及センター

指導・助言

地域における独自の取組

- ・環境保全型農業の推進(農薬・肥料の低減)
- ・スマート農業に関する実証・研修会の開催
- ・地域条件に応じた生産体系の助言・指導

取組成果

【事業実施による直接効果】

施設整備や機械の大型化による生産性の向上

【事業実施による間接効果】

担い手の生産拡大(離農者農地の受け皿確保)
新たな販路確保
環境保全型農業の取り組み維持・拡大



担い手の体質強化
経営規模拡大
農地保全

輸出用米出荷量が
15.1t増加
(達成率100.8%)

(R1) 取扱なし → (R4) 15.1t